

校長室の窓辺より

都留市大野396 電話 0554(43)2336

校長 深澤 秀興

教科書に依らない学び

教科書を使った学習が、学校での学習の基本であることは間違いありません。このことに異を唱える方はいないと思います。その一方で、人生をよりよく生き抜くための学習が、教科書を使った学習だけで十分かと言えば、決してそうではないと思います。

- ① 地域の方々、世代を超えた方々と触れあいながら生きる学習
- ② 物騒な世の中であって、自分の身は自分で守るという術を身に付ける学習
- ③ 土砂災害警戒情報が発表された場合の避難の学習
- ④ 障害のある人をいたわり、お互いに支え合って生きていくことを学ぶ学習
- ⑤ 自分が所属するリーダーを、自分たちで選んでいくというルールでの学習
- ⑥ 子どもといえども、地域の一住民として地域の行事に参加するという体験

既に義務教育の学校を卒業なされ、一足先に社会に出られた保護者の皆様、地域の皆様には、教科書には依らないけれど、これらの学習がとても重要であることは、御理解いただけるかと思えます。今月号では、11月に実施したこれらの学習について御報告させていただきます。

① 地域の方々、世代を超えた方々と触れあいながら生きる学習

先月号で予告した本校恒例の**ほうとう煮会**を、好天に恵まれる中、予定通り11月8日(金)に実施しました。

当日は、保護者の皆様をはじめ、宮澤宏様、中野満寿美様といった開地地区協働のまちづくり推進会の皆様、本校学校評議員の皆様、スクールガードの皆様、在校生のおじいちゃんやおばあちゃん、本校OBの方々等多くの皆様にお越し頂き、またお力添えいただく中で、ほうとう煮会を実施しました。



3・4年生はこれらの方々から麺うちを、5・6年はかまどの火越し、火の番の仕方を直接伝授していただきました。

② 物騒な世の中であって、自分の身は自分で守るという術を身に付ける学習

先月、本校学区と境界を接する隣村において、家族とキャンプ場を訪れていた千葉県の小学1年生が、行方知れずとなってしまったという事案が発生しました。このことについては、事故なのか事件なのか、未だにはっきりしたことは分からないということだそうですが、幼い子どもの消息が途絶えてしまっているという事だけは事実であります。そのようなこともあり、11月15日(金)に、1年生から4年生を対象とした**防犯教室**を行いました。当日は、住吉駐在所の桑原巡査と大月警察署スクールサポーター萩原興治様にお越し頂き、声かけ事案に遭遇した場合はどうしたらよいかなど詳しく御指導いただきました。**イカ**ない、**ノ**らない、**オ**お声をだす、**ス**ぐ逃げる、**シ**らせる。この「**いかのおすし**」をお家でも、確認してみてください。



③ 土砂災害警戒情報が発表された場合の避難の学習

台風19号通過の折には、この開地地区も大雨に見舞われ、菅野川も激流と化したことは記憶に新しいところです。そこで、11月21日(木)には、都留市行政防災室より管理担当中村洋一様と総務課蛭間悠太様にお越し頂き、気象庁より本校を含む地域に土砂災害警戒情報が発表され、学校裏山の土砂崩れが予想されるというケースを想定して、**避難訓練**を実施しました。この場合、垂直避難により3階へ、しかも山側に遮蔽物がある6年教室を避難場所としました。そして、避難後に、映像により土砂崩れの実際を観察したほか、避難所生活を想定して、アルファ米の試食、寝袋体験等を行いました。実際に、今回の学習が役立つ場面が訪れては困るわけですが、万が一に備えて訓練を行いました。尚、このときの様子は、都留市の広報12月号に掲載されるとのことです。こちら併せて御覧下さい。



難場所としました。そして、避難後に、映像により土砂崩れの実際を観察したほか、避難所生活を想定して、アルファ米の試食、寝袋体験等を行いました。実際に、今回の学習が役立つ場面が訪れては困るわけですが、万が一に備えて訓練を行いました。尚、このときの様子は、都留市の広報12月号に掲載されるとのことです。こちら併せて御覧下さい。

④ 障害のある人をいたわり、お互いに支え合って生きていくことを学ぶ学習

毎年この時期に行っている福祉講話を、今年は11月22日(金)に行いました。今年は講話だけでなく、体験活動を取り入れ、障害者の抱える困難さや不自由さを共感的に理解することをねらいとしました。そこで、当日は、長きに渡り目の不自由な方の外出時のサポーターを勤められ、厚生労働大臣表彰も受賞された下谷にお住まいのホームヘルパー深沢久子様にお越し頂き、講話と**アイマスク体験**(アイマスクを付けて意図的に目の見えない状況を作り、白杖と介助者の支援を頼りに、実際に階段の上り下りを含む歩行の

【裏も御覧ください】



体験活動)を実施しました。4年生以上は実際に体育館のステージを上り下りするコースで、3年生以下は体育館のフロアーに体育用のマットを敷いて段差をつけたコースで実施しました。

子どもたちからは、「目の不自由な人はいつも、こわい想いをしていることがよく分かりました」(4年加藤大空)、「ぼくはまちなかでこまっているひとがいたら、深沢さんに教えてもらったことを生かして、助けてあげたいとおもいます」(4年小俣羅亜夢)「『できることをできるときに』という言葉が一番心にささりました」(5年高部恵佑)と言った感想が寄せられました。

12月の主な予定

4日(水)	北欧留学生来校(1・2年)
6日(金)	児童会役員選挙
7日(土)	都留一中入学説明会
11日(水)	こぶたの会読み聞かせ(1~3年)
16日(月)	個別懇談・健康相談(~20日(金)) 集団下校
24日(火)	給食終了
25日(水)	終業式
26日(木)	冬休み(~9日)

1月10日(金) 3学期始業式

⑤ 自分が所属するリーダーを、自分たちで選んでいくというルールの学習

社会科を専門教科とする私は、細谷雄一という慶應義塾大学の先生を以前から注目しており、親書が出る度に関心を持って買ってきました。今回、その細谷先生が『日本近代史講義』(中公新書)という本を出されたというので、読み進めています。これを読むと、徳川将軍を頂点とする武家社会であった日本が、明治維新を経て、いかに苦勞の末に立憲国家になりえたかが分かります。私たちの国では民主主義というルールが当たり前のものとして機能していますが、世界には、21世紀を迎えた今日においても、異なる政治システムにおいて人々が苦しめられている状況もあります。

いよいよ、来年度の児童会の執行部を選出する**児童会役員選挙**がスタートします。単に執行部を選ぶという取組ではなく、立候補する者の責任、選ぶ者の責任。選挙運動、投票活動を通して、自分の所属する児童会について考える。このような、学習の場にしていきたいと思えます。

⑥ 子どもといえども、地域の一住民として地域の行事に参加するという体験

開地地域協働のまちづくり推進会主催による文化交流展が、11月23日(土)・24日(日)の両日、開地地域ふれあい集会場で開催されました。

本校では昨年同様、国際・料理クラブ(顧問:高部正美先生・佐藤明美先生)のメンバー6名が、初日の13時~14時という時間限定ではありましたが、60名の方々に呈茶のサービスをさせていただきました。

お陰様で子どもたちの、お茶を点てる腕前も上がり、大変ご好評を頂きました。

学校の敷地内だけではなかなか味わえない、地域の方々、しかも大人の人たちとの時間をもてたことは、子どもたちにとって大きな経験になったと思います。

肌で感じた「ここが私の故郷」、そして「これが日本の文化」という思いを、是非大切にしていって欲しいと思いました。

